

令和5年度学校評価(自己評価)計画書

石川県立小松特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 指導力の 向上	【教科指導における最適なICT活用】 教科指導において、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTを効果的に活用し、対話のある授業づくりに取り組む。	研修 研究課 教務課 情報課	昨年度は、授業の目標達成のためにタブレット端末を活用し一定の成果が見られた一方で、課題として児童生徒同士の対話的な学習が難しかったことが挙げられた。今後は、学部や発達段階に応じた対話のある授業づくりの向上に向け、ICT全般を効果的に活用し、授業の充実を図る。	【努力指標】 教科指導においてタブレット端末等を活用し、対話のある授業づくりに取り組んでいる。	タブレット端末を活用することで、対話のある授業づくりに取り組めた A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+B 70% 以上で 達成	評価者：教員 7月 タブレット端末活用授業実践記録 9月 Formsでアンケート 1月 Formsでアンケート
			【満足度指標】 学校は対話のある授業の様子を適切に情報発信していると受け止めている。 (保護者アンケート)	授業参観やHIP、学部・学年だよりや連絡帳等で提供された情報をおとして、児童生徒の授業の様子を理解が深まった保護者の割合 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上 で達成	評価者：保護者 9月 アンケート①(forms) 10月 分析、中間評価 1月 アンケート②(forms) 2月 分析、最終評価	
2 安全・安心な学校	【災害対策】 学部の中で役割を明確にし、災害時に適切な行動がとれるようにする。学校安全課は全員体制を組み、管理職と連携してイニシアティブがとれるように取り組む。 【保健指導】 児童生徒が、自らの体や心の成長に興味を持ち、性に関する正しい知識を得るために、児童生徒の発達段階に応じ、性に関する健康教育の充実を図る。	各部 学校 安全課 保健 体育課	昨年度、大雪や豪雨に見舞われた際に本校の安全管理体制の強化が喫緊の課題であることが分かった。危機管理マニュアルを参考に全職員が安全意識を高め、災害に備えた自らの動きを点検する必要がある。	【成果目標】 避難訓練や気象災害時に組織的に、学校や児童生徒の安全を守るために、迅速かつ適切に役割を担ったり行動したりすることができる。	避難訓練や気象災害時に迅速かつ適切に役割を担い、行動することができた A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+B 80% 以上で 達成	評価者：教員 4月 危機管理マニュアルの共通理解、また、災害時の担当割り。訓練や災害予報時は、役割の明確化、情報収集・共有、全職員への指示。 10月 中間評価 年度末 最終評価
			性犯罪・性暴力対策強化の方針が出される中、昨年度の教員アンケートより、児童生徒の性的問題行動に気付きながら、指導・改善に困難感を抱える教員が多いことがわかった。性犯罪、性暴力の加害者にも被害者にも傍観者にもならないよう学校全体で系統的及び個に応じた教育・啓発に取り組む必要がある。	【努力指標】 学年や学習グループ、発達段階に応じた性に関する健康教育を計画的に立案し、指導・啓発を行っている。	児童生徒の発達段階に応じ、性に関する健康教育に取り組むことができたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上 で達成	評価者：教員 9月 アンケート①(forms) 10月 分析、中間評価 1月 アンケート②(forms) 2月 分析、最終評価
				【満足度指標】 学校の性教育の取り組みに満足している。 (保護者アンケート)	学校の性教育の取り組みの様子がわかり、満足している保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上 で達成	評価者：保護者 9月 アンケート①(forms) 10月 分析、中間評価 1月 アンケート②(forms) 2月 分析、最終評価
3 校外活動 の推進	【校外活動の適切な再開】 宿泊行事、外部販売、清掃等地域活動、交流及び共同学習、スポーツ教室等、各部等の行事において改めて目的を意識し、マニュアルや手順、安全性など様々な観点から見直し、適切に活動を再開していく。	各部	これまでの3年間はコロナ感染拡大防止のため、多くの行事が中止となった。また、実施した全校行事においても、児童生徒数の増加のため、全校一斉に行うことが困難になり、実施方法を工夫して行った。今年度は行事の再開に向けて、適切に活動を実施していく必要がある。	【努力目標】 行事の目的を意識し、マニュアルや手順、安全性など様々な観点から見直し、適切に活動を実施する。	行事の目的を意識し、マニュアルや手順、安全性など様々な観点から見直し、適切に活動を実施できた A あてはまる B ややあてはまる C あまりあてはまらない D あてはまらない	A+B 80% 以上で 達成	評価者：教員 9月 アンケート①(forms) 10月 分析、中間評価 1月 アンケート②(forms) 2月 分析、最終評価
4 業務の 改善	【業務の効率化と環境整備】 業務におけるICT活用をさらに進め、家庭への配付物をメールで配信することによりペーパーレス化していく。各部や各課でメール配信に切り替えることができるものから計画的に進める。	教頭	家庭への連絡事項は、緊急連絡や周知事項以外は概ね紙媒体が主で、印刷や配付業務の負担は大きい。携帯・情報端末を持たない保護者は一定数いるが、保護者の一部からメール配信を望む声もある。保護者のニーズに応じた効率化を推進する必要がある。	【努力指標】 家庭への連絡・調査の文書をペーパーレス化し、業務の効率化を進める。	家庭への連絡・調査のペーパーレス化に向けて配信対象が整理でき、計画的に進んでいると感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上 で達成	評価者：教員 9月 アンケート①(forms) 10月 分析、中間評価 1月 アンケート②(forms) 2月 分析、最終評価